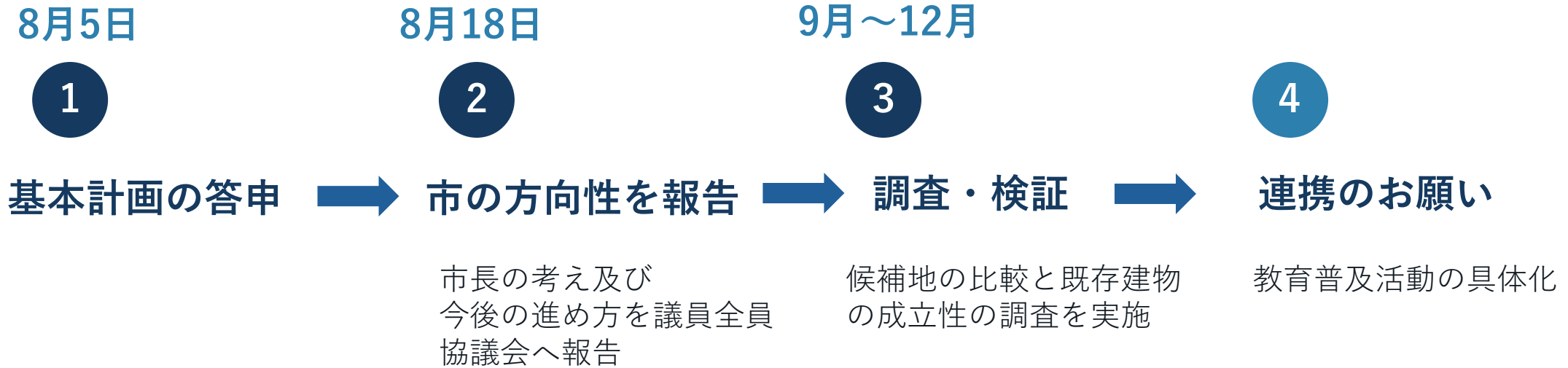


伊賀市美術博物館基本計画の答申及び 今後の進め方

教育普及活動における教育委員会との連携に向けて

本日の説明の流れ



施設整備の調査・検証後、教育普及活動の具体化を進めたいと考えます。

伊賀の歴史文化の拠点として

施設のめざす姿：芭蕉翁のふるさと 伊賀の歴史文化 ひろがる未来への拠点

育む・創造

ホンモノに触れ、
感性と創造力を育てる

伝える・情報発信

伊賀の歴史文化を
市内外に分かりやすく伝える

集う・交流

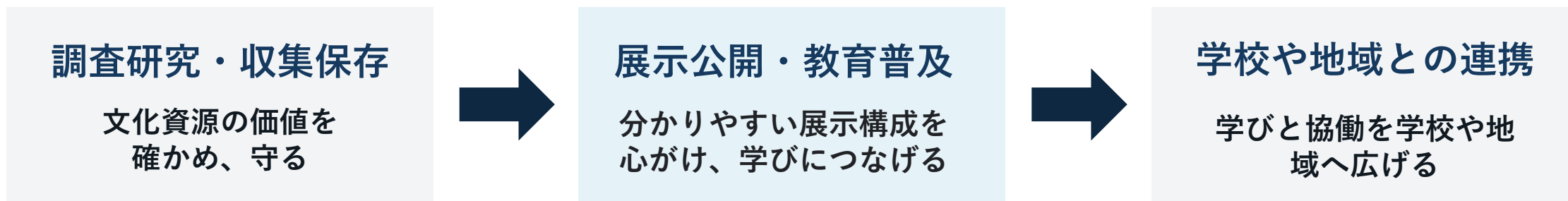
市民参加と対話を生み出し
新しい活動につなげる

守る・保存継承

貴重な資料を守り、
次世代へ引き継ぐ

教育普及活動は、成果を届ける中核活動

事業活動の流れ



教育普及活動は、調査研究や展示の成果を
子ども・市民へ届けるための中核的な活動と考えます。

市長の考えを共有し、市として根拠に基づき判断します

市長の考え

理念の尊重 答申の理念と必要な役割は市の文化振興に活かしていく

規 模 基本計画の規模をそのまま整備することは困難

整備候補地 旧上野市立図書館の既存建物を活用したい

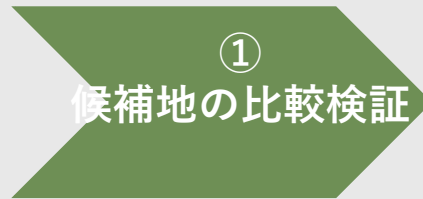
市の方向性

整備候補地の決定 整備候補地を同じ条件で比較検証し、その結果を基に決定する。

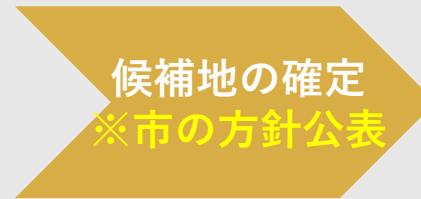
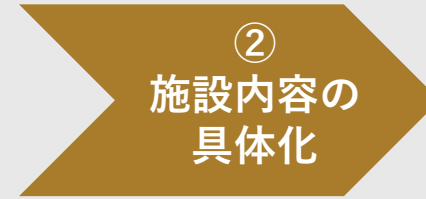
機能などの精査 必要な機能・施設規模と持続可能性を踏まえ基本計画の具体化を行う。

全体の流れ

第1段階：候補地を確定するための調査



第2段階：選定地に合わせた内容の具体化



①桃青中学校跡地への新設 ②旧上野図書館跡地への新設 ③旧上野図書館跡の既存建物活用の3つの整備案の比較検証に着手します。候補地確定後、施設内容の具体化へ着手します。

整理の要点

候補地評価軸の整理

市の計画との整合性・波及効果・持続性で評価します。

並行して成立性確認

安全・環境・動線・設備の4項目で既存建物活用の成立性を確認。

確定後に具体化

基本計画答申の機能を、選定地の条件、市内施設との役割分担に合わせて再構成します。

※3つの整備案を同じ条件で比較検証するとともに、旧上野図書館跡の既存建物活用の成立性を並行して調査します。

教育委員会にお願いしたい3つのこと

1

教育プログラムの 検討

(例) 伊賀の歴史文化の事前
学習⇒施設体験⇒振り返り⇒
探求学習などとの接続

2

学校が利用しやすい 条件の整理

移動手段・受入人数・安全対
策・アウトリーチやサテライ
トなど

3

継続的な 連携体制づくり

定期的な意見交換
子ども・教職員の声を反映

文化行政と教育行政が連携し、 子どもの未来につながる施設へ

子どもたちが伊賀の歴史文化に触れ、考え、表現し、郷土への愛着と誇りを育む学びの拠点をめざします。

教育普及活動の具体化に向け、今後の検討への参画をお願いします